

## 研究協力をお願い

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

### 傍前床突起内頸動脈瘤の局在診断方法の開発

#### 1. 研究の対象および研究対象期間

2012年6月1日～2021年7月31日

傍前床突起動脈瘤に対して開頭クリッピング術を受けられた方

#### 2. 研究目的・方法

傍前床突起内頸動脈瘤とは内頸動脈が硬膜外から内へと通過する部分にできる動脈瘤です。この動脈瘤が硬膜内に存在すると破裂し「くも膜下出血」を発症する恐れがあり治療を考慮しなければいけません。硬膜外にあれば、基本的には破裂の危険は低く経過観察となります。

硬膜内外の境目になるのが distal dural ring (DDR) と呼ばれる硬膜の構造物となります。DDR は CT や MRI などの検査で描出することができない為に傍前床突起内頸動脈瘤が硬膜内なのか外なのかの判断は非常に難しく、これまでも様々な方法が報告されてきましたが、簡便で汎用性のある判別方法は認められておりません。

これまでの我々の研究や経験・解剖学的知識から DDR が内頸動脈にどのように付着しているかは周囲の骨構造から予想可能であることが判明しており、この周囲の骨構造から予想され得る DDR の走行を 3DCTA 画像上定義できれば、より簡便に傍前床突起内頸動脈瘤の局在を診断することが可能になると考えました。

そこで、傍前床突起内頸動脈瘤に対して当院にて開頭クリッピング術を受けられた患者さんを対象とし、術前の 3DCTA 画像で DDR の位置を予測し動脈瘤との位置関係を評価します。その評価結果と実際の手術所見を照らし合わせ、術前に予測した DDR の位置の正確性を評価し、新たな診断方法としたいと考えています。

#### 研究期間

医学研究科 人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、昭和大学医学研究科長（昭和大学病院 病院長）による研究実施許可を得てから 2025 年 12 月 31 日まで。

**3. 研究に用いる試料・情報の種類**

手術中の所見（動脈瘤と DDR の位置関係）

手術前に通常撮影する CT, MRI, 脳血管撮影の画像

**4. お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：脳神経外科学講座

氏名：松本 政輝

住所：142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8

電話番号：03-3784-8605

研究責任者：昭和大学病院 脳神経外科学講座 松本 政輝